

日米首脳 9時間半一緒

ゴルフでの会話 記録残らぬ懸念

トランプ米大統領が七日、二泊三日の訪日日程を終え、日本を後にした。約四十八時間の滞在中、安倍晋三首相とトランプ氏が一緒に過ごした時間は約九時間三十分。「蜜月」関係を

長時間顔を合わせた日米首脳		首相といた時間
日時	トランプ氏の主な日程	
5日	午前 大統領専用機エアフォースワンで米軍横田基地に到着。米兵、自衛隊員らを前にスピーチ	—
	午後 首相と埼玉県川越市でゴルフ 首相夫妻と都内の鉄板焼き店で夕食(滞在先ホテルからの移動含む)	約2時間40分 約1時間50分
6日	午前 駐日米大使公邸で日米財界人を前に講演 天皇皇后両陛下と皇居で会見 迎賓館で儀仗隊による栄誉礼、儀仗	— 約10分
	午後 ワーキングランチ 日米首脳会談 拉致被害者家族との面会 共同記者会見 夕食会	約1時間10分 約35分 約30分 約35分 約2時間
7日	午前 韓国へ横田基地から出発	計 約9時間30分

確認した両首脳は、北朝鮮問題などで「突っ込んだ話」(首相)をしたが、ほぼ二人きりだったゴルフなどでは、外交上の記録が残らない可能性がある。

両首脳は、初日の五日にゴルフと二度の食事、二日目の六日にはワーキングランチ、首脳会談、夕食会などをともにした。

対北圧力手詰まり鮮明

安倍晋三首相とトランプ米大統領は六日の日米首脳会談で、北朝鮮への圧力を最大限に高めることで一致した。圧力路線の問題点を柳沢協二さんに聞いた。

氏との親密さは際立つ。二〇一四年にオバマ氏が二泊三日の日程で来日した際は、両首脳の食事は宮中晩さん会も含め二回だけ。日本側が希望した昼食会は開かれず、明治神宮などの訪問に首相は同行しなかった。

今回の訪日で首相と同席する最後の機会となった六日の夕食会で、トランプ氏は首相と過ごした時間を「本当に素晴らしかった」と語った。一方で「ゴルフでは仕事の話ばかりしていた」とも打ち明けた。

い懸念がある。菅義偉官房長官は七日の記者会見で、ゴルフでの会談記録を残すかどうかは明言しなかったが、「一般論で言えば、記録に残す必要がある外交上のやりとりは、残すことが通常ではないか」と話した。

柳沢協二さんの
ウオッチ
安全保障
元内閣官房副長官補

の核実験をしないことか、米国に届く大陸間弾道ミサイル(ICBM)を撃たないことか、分からない。こちらの目標が分からないければ「最大限の圧力」の先にとのうな結末を描いているのか、誰も分からない。合意なのか、あるいは戦争なのか。

いつまで国民を巻き込むチキンゲームを続けるのか。誠実なリーダーなら、今すべきことは明確な展望を語ることだ。

北朝鮮の核開発を巡る情勢が緊迫を強める中、日米首脳会談で打ち出されたメッセージは予想通り、北朝鮮に対する圧力を最大限に高めることだった。問題解決に向けた展望は示されず、むしろ圧力路線の手詰まりを浮き彫りにし

た。安倍首相は、北朝鮮の側から「政策を変えるので話し合いたい」という状況をつくると言っ。そこで期待される政策変更とは何か。核の即時放棄か、これ以上

トランプ氏は武力行使という選択肢があることを繰り返して、首相はこれを明確に支持している。どのような条件で武力行使するのか、日本や韓国にどのよう

「かつてなく強固」だと誇っている。だが、どうやって目の前にある戦争の危機を払拭し、核を放棄させる最終の目標に至るのか。それができなければ、いかなる同盟も意味がない。首相が好んで言うように、政治は結果だ。

(寄稿)

(清水俊介)